

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2020-1026	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:全ゲノムリファレンスパネル(8.3KJPN)対象者のうち、宮城県参加者 約7,700人 試料:なし 情報:基本情報、ゲノム配列情報、調査票情報、検査情報	
主たる研究機関	The Institute for Stem Cell Science and Regenerative Medicine (India)			分担 研究機関	東北メディカル・メガバンク機構	
研究題目	アジア人における心血管疾患の遺伝的基盤の解明			研究期間	2021年1月～2023年3月	
実施責任者	Perundurair Dhandapany	所属	The Institute for Stem Cell Science and Regenerative Medicine		職位	Professor
研究目的と意義	アジア人における心血管疾患への罹りやすさにおいて、どのような遺伝子が関わっているかを解明する研究を行います。具体的には、インドのバンガロールにある幹細胞科学再生医学研究所(The Institute for Stem Cell Science and Regenerative Medicine)の教員(assistant professor)であるPerundurair Dhandapany の研究グループが検出した心血管疾患に関係する遺伝子の候補に着目し、それらの遺伝子のゲノムのバリエーションがコホートで得られた調査票や検査データとの関係を調べることによって、心血管疾患に関わる遺伝子の候補がどのように健康に影響しているかを検証します。					
研究計画概要	共同研究グループは、心血管疾患の罹りやすさに遺伝がどのように関わっているかを解明する研究活動を行っています。インドの心血管疾患の患者家族(心筋症:800、先天性心疾患:300 心不全:100、合計1200 家族)のゲノム解析(実際にはトリオ全エクソーム解析)を行い、心血管疾患に関わる遺伝子の候補をいくつか検出しています。これらの遺伝子の候補について、健康にどのように関わっているかの研究を推進しているところです。 これらの候補遺伝子のゲノムのバリエーションの中には、東北メディカル・メガバンク機構のコホート参加者の全ゲノム解析でも検出されているものがあります。これらのバリエーションが健康にどのように関係しているかを調べることで、候補遺伝子の生物・医学的な効果を検証する上で有用です。そこで、コホートでの調査項目のうち、心血管疾患に関係するアンケート調査や健康調査の項目に着目し、候補遺伝子のバリエーションとの関係を調べます。得られた結果は、関連解析の統計量としてインドの幹細胞科学再生医学研究所のグループに提供される予定です。これは、アジア人における心血管疾患の原因となる候補遺伝子の検証のデータの一部となる見込みです。					
期待される成果	アジア人における心血管疾患の原因となる候補遺伝子の検証のデータの一部となる見込みです。					
これまでの倫理 審査等の経過	2021年1月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	心血管疾患の候補遺伝子のゲノムのバリエーションと病歴等の関連解析は、東北メディカル・メガバンク機構のスーパーコンピュータ上で、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。関連解析の結果は、統計量のデータとして機構外の共同研究者に報告されますが、これは個人ごとの情報を一切含んでおりません。					
その他特記事項	東北メディカル・メガバンク事業					
*公開日	令和3年2月8日					